

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所屬機関名 ショウジョウバエ遺伝資源センター

平成 22 年 10 月 22 日

役職・氏名 (自 署)

特任教授 草野好司

研究員 金森保志

特任准教授 松本 宏

特任教授 上田 雅彦

外国人研究員 Del Carpio Carlos A.

送信先 : FAX : 0155-49-5643 Eメール : kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 京都工芸繊維大学

平成 22 年 11 月 10 日

役職・氏名 (自 署)

准教授 亀井 加恵子大学院生 島林 優一大学院生 三木 海斗Donor student NGUYEN THI TU ANH学部生 岡田 山俊明大学院生 西谷 真依子

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所属機関名 ショウジョウバエ遺伝資源センター

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署)

研究支援推進員 大長 洋臣

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所属機関名 ショウジョウバエ遺伝資源センター

平成 22 年 10 月 22 日

役職・氏名 (自 署)

研究員 山田 博子
非常勤研究員 高 橋 由 理
研究員 渡邊 昌秀

研究員 安野 雄策
産学官連携研究員・大西 美子
産学官連携研究員 大迫 隆史

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所属機関名 ショウジョウバエ遺伝資源センター

平成 22 年 10 月 22 日

役職・氏名 (自 署)

助研 都丸 雅敏
特任教授 草野 好司
研究員 金森 保志

特任教授 松林 宏
特任教授 上田 雅彦
外国人研究員 Del Campio Carlos A.
フェルナンド カルロス

送信先 : FAX : 0155-49-5643 Eメール : kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 宮城

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」(代表:山本雅敏)が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 京都工芸繊維大学

平成22年 11月 / 〇日

役職・氏名(自 署)

准教授 亀井 加恵子
大学院生 島林 優一
大学院生 三木 海斗

Doctor student NGUYEN THI TUANH
大学院生 岡田 山俊明
大学院生 西谷 真依子

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所属機関名 ショウジョウバエ 遺伝資源センター

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署)

研究支援推進員 大長 洋平

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」（代表：山本雅敏）が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学
所属機関名 ショウジョウバエ遺伝資源センター

平成22年10月22日

役職・氏名（自 署）

研究員 山田 博 石
非常勤研究員 高 橋 由 理
研究員 渡 邊 昌 希

研究員 宇野雄策
産学官連携研究員 大西 美子
産学官連携研究員 大迫 隆史